

平成 26 年 4 月 29 日現在

機関番号：33917

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652073

研究課題名(和文) グラン＝ギニョル劇とベル・エポックの科学

研究課題名(英文) The theatre of Grand-Guignol and the sciences of Belle-Epoque

研究代表者

真野 倫平 (Mano, Rimpei)

南山大学・外国語学部・教授

研究者番号：30257232

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円、(間接経費) 630,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、ベル・エポックのフランスで作られた恐怖演劇であるグラン＝ギニョル劇に対する諸科学の影響を調査した。グラン＝ギニョル劇はたいてい、下層階級・流れ者・精神異常者・伝染病といった現実的存在を恐怖の対象とした。それはブルジョワ社会の安全を脅かすマージナルな存在を意味していた。このジャンルの著者たちはしばしば当時の最新の科学知識を利用して、これらの脅威を説明した。われわれはそこに、このジャンルの主要な観客であるブルジョワ階級の無意識的な恐怖の反映を読み取ることができる。最後に、以上の研究成果を数本の論文として発表した。

研究成果の概要(英文)：We made a study on the influence of the sciences towards the theater of Grand-Guignol, Theater of horror of Belle-Epoque. The theater of Grand-Guignol usually has for object of horror the proletarians, the tramps, the insane persons, the epidemic, etc. They mean marginal beings which can threaten the security of the bourgeois society. The authors of this genre often refer to the sciences of time to explain their threats. We can find the track of the unconscious fear of the bourgeois spectators there. Finally, we published the fruit of our studies in several articles.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、ヨーロッパ文学(英文学を除く)

キーワード：仏文学 演劇 科学史

1. 研究開始当初の背景

(1) グラン＝ギニョル劇はフランスのベル・エポックの時期に作られた恐怖演劇である。このジャンルはこれまで低級なジャンルとみなされ、日本はもとよりフランスのアカデミズムにおいてもほとんど研究がなされてこなかった。申請者は著書『グラン＝ギニョル傑作選 ベル・エポックの恐怖演劇』(水声社)によって2010年に初めてこのジャンルの日本への本格的な紹介を行った。

(2) グラン＝ギニョル劇は同時代の社会情勢との関連がきわめて深く、第三共和政時代のフランス社会を知る上で極めて重要な領域である。とりわけこのジャンルは医学をはじめとする科学との関連が深く、文学と科学との影響関係を調べるには格好のジャンルである。その意味でこのジャンルと当時の諸科学の関連を調べることは、文学と科学を包含する同時代的な知の制度を解明する学際的研究の先進的な試みと考えられた。

2. 研究の目的

(1) 本研究はグラン＝ギニョル劇とそれを取り巻く社会状況、特にこのジャンルに対する諸科学の影響を明らかにするものである。とりわけこのジャンルの中核をなす「医学演劇」と呼ばれる一連の作品を取り上げ、シャルコーをはじめとする同時代の医学文献との比較研究を行う。また、当時の医学は犯罪科学と深く結びつき、政治や社会における重要な論点となっていた。その意味で本研究は、文学・科学・歴史・社会など複数の分野を横断する学際的な研究をなすものである。

(2) 近年の文学研究は、文学作品を文学史という狭い枠組みで把握するのではなく、より広いエピステーメーの一環として、周辺諸科学との関連においてとらえ直す方向に進んでいる。ベル・エポックの文学についても、

例えばゾラの小説と自然科学の関係などについてこの種の研究は大きな成果を生み出している。とはいえ、社会情勢を直接反映するはずの大衆小説・通俗演劇などのサブジャンルにおける研究は未発達である。その意味で、グラン＝ギニョル劇を当時の文化全体の中に置き直してみることは、単に文学研究としてのみならず、ベル・エポックの文化史研究としてきわめて重要な意義を持つ。

3. 研究の方法

(1) まず、グラン＝ギニョル劇の関連資料を入手する。グラン＝ギニョル劇の代表作家であるロルド、メレ、ルヴェル、ベルトン、フランシュヴィル、メテニエらの著作は今日ではことごとく絶版となっており、これらについては古書を購入するか、あるいはフランス国立図書館に複写を依頼する。戯曲が掲載された当時の雑誌・新聞についても、同様の手段で入手する。さらに演劇関係の研究書ならびに辞書類を購入する。また、当時のポスター・プログラムなども、総合芸術としてのグラン＝ギニョル劇を考えるうえで不可欠な資料であるため、可能なかぎり入手する。

(2) 次に、医学などの周辺諸科学の図書を購入する。特に、グラン＝ギニョル劇の中核をなす医学演劇の研究のため、シャルコーをはじめとするサルペトリエール学派の医学関係の資料を入手する。また、上記の通りグラン＝ギニョル劇は当時の犯罪科学と深い関連を持っているので、ロンブローゾ、ベルティオンをはじめとする当時の犯罪学や法医学に関する文献、ならびにそれらについての現代の研究書も入手する。さらに、グラン＝ギニョル劇に対する当時の政治情勢・社会情勢の影響を調べるために、新聞・雑誌等のジャーナリズムについての関連資料ならびに研究書を購入する。

(3) また、フランスへ毎年一定期間の調査出張を行う。グラン＝ギニョル劇の一部は当時の新聞・雑誌などに掲載されており、グラン＝ギニョル劇とジャーナリズムとの関連を調べるために、当時の挿絵入新聞などの調査を行う必要がある。これらの十九世紀後半から二十世紀にかけての新聞・雑誌類は、一部がインターネット上で公開され、あるいは日本の図書館に保管されているものの、大部分は日本では入手不可能である。そのためにフランスに滞在し、フランス国立図書館で調査を行う。

(4) さらに、資料の整理ならびに論文執筆のため、コンピュータを一点購入する。また、視覚資料を多く扱うために、プリンタおよびスキャナを用意する。さらに外付 HD などの周辺機器も購入する。

(5) 以上の研究成果を論文あるいは学会発表というかたちで定期的に発表する。

4. 研究成果

(1) まず、資料の収集に関しては、グラン＝ギニョル劇の基本文献ならびに同時代の諸科学の主要文献を集めることができた。なかにはプログラムやポスターといった視覚的資料や、SPレコードといった音声資料など、貴重な資料も含まれている。フランスの国立図書館の調査出張においても、新聞・雑誌といった当時のジャーナリズム関連の資料を調査することができた。

(2) それらの資料にもとづき、グラン＝ギニョル劇と同時代の諸科学（医学、心理学、犯罪科学、細菌学、心霊科学など）との関係について研究を行った。その研究成果を、雑誌論文あるいは学会発表というかたちで発表した。これによって、文学・科学・歴史・社会など複数の分野を横断する学際的な研

究として一定の成果を上げることができた。またこの研究を通じて得られた多くの研究者との交流の機会は、さまざまな領域における知見を広げるうえで大いに価値があった。

(3) とはいえグラン＝ギニョル劇に関連する科学の領域はきわめて多岐にわたるので、医学、心理学、犯罪科学、細菌学、心霊科学などについては一定の成果を上げることができたが、人類学、民族学、衛生学などの領域については十分な研究を行うことはできなかった。今後はこれらの残された領域をカバーするとともに、これまでの分析をまとめて総合的な著作を執筆する作業に取りかかりたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

真野倫平、グラン＝ギニョル劇における異境のイメージ ロルド、モレル『究極の拷問』における中国像、南山大学ヨーロッパ研究センター報、査読無、第20号、2014年3月、pp. 1-16.

真野倫平、グラン＝ギニョル劇と細菌学 フランシュヴィル『美しき連隊』を中心に、南山大学ヨーロッパ研究センター報、査読無、第19号、2013年3月、pp. 29-37.

真野倫平、グラン＝ギニョル劇と三面記事、南山大学ヨーロッパ研究センター報、査読無、第18号、2012年3月、pp. 13-24.

〔学会発表〕(計6件)

真野倫平、グラン＝ギニョル劇における異境のイメージ、南山大学地域研究センター共同研究「19～20世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係」第6回シンポジウム、2014年3月27日、南山大学。

真野倫平、グラン＝ギニョル劇と心霊科

学の諸問題、科学研究費基盤研究(B)科学の知と文学・芸術の想像力 ドイツ語圏世紀転換期の文化についての総合的研究」主催シンポジウム「科学知の詩学 19～20 世紀のフランス・ドイツにおける科学と文学・芸術」、2013 年 12 月 7 日、東京大学。

真野倫平、グラン＝ギニョル劇と細菌学の諸問題、南山大学地域研究センター共同研究「19～20 世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係」第 3 回シンポジウム、2013 年 3 月 27 日、南山大学。

真野倫平、グラン＝ギニョル劇と精神医学の諸問題(2)、南山大学地域研究センター共同研究「19～20 世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係」第 2 回シンポジウム、2012 年 12 月 15 日、南山大学。

真野倫平、グラン＝ギニョル劇と精神医学の諸問題、南山大学地域研究センター共同研究「19～20 世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係」第 1 回シンポジウム、2012 年 10 月 26 日、南山大学。

真野倫平、グラン＝ギニョル劇と三面記事、南山大学ヨーロッパ研究センター定例研究会、2012 年 1 月 17 日、南山大学。

6 . 研究組織

(1)研究代表者

真野 倫平 (MANO, Rimpei)

南山大学・外国語学部・教授

研究者番号：3 0 2 5 7 2 3 2